

1956年度神戸女学院大学生の 発育及び健康状態について

市川民慈子

1. 緒 言

日本では明治30年（1897年）に学生身体検査規定が定められ、身長、体重、胸囲、栄養、脊柱、視力及び屈折状態、色神、眼疾、聴力、耳疾、歯牙、その他疾病異常等の検査が行われるようになり、その後も多少の変化はみられたが坐高、ツベルクリン皮内反応、X線検査等も加えられ、一應測定は学校身体検査として約60年間施行されて今日に至つた。

これを実施する事により学徒の発育及び健康状態の実状を知り、発育或いは栄養状態の不可者には、それを促進し栄養改善の方法を講じるように忠告し、現在異常乃至疾病のある者には治療矯正を指導助言し且つ健康相談を受けて個人の健康管理を徹底する事を理想とする。又この結果は学習指導上にも應用されて個人の健康に対する自律性を興え、將來の健康生活の基礎をつくる事を目的とする。従つて身体検査を適確に実施しその結果の活用如何は大なる影響を生じる。

昭和24年述者が神戸女学院大学へ赴任以來毎年4月の身体検査状況を観察し、本大学は文部省の直接調査対象校に指定され、その報告は國家の保健行政の基礎資料として多少の貢献をして今日に及んでいる。

ここに在学生の発育及び健康状態を調査しその実態を示して自他共に認識する事は大いに意義があるから1956年度全学生877名（満18年218名、満19年233名、満20年215名、満21年189名、満22年22名）の身体検査の成績を発表する。

2. 観 察 方 法

1. 個々の検査は学校身体検査規定に基づいて行つた。
2. 年令区分は昭和31年4月1日現在の満年令による。即ち次の如くである。

満年齢	生 れ た 期 間
18年	昭和12年4月2日 ~ 昭和13年4月1日
19年	昭和11年4月2日 ~ 昭和12年4月1日
20年	昭和10年4月2日 ~ 昭和11年4月1日
21年	昭和9年4月2日 ~ 昭和10年4月1日
22年	昭和8年4月2日 ~ 昭和9年4月1日

3. 計量区分
身長、胸囲及び坐高は1cm区分。体重は1kg区分とし、この際小数点以下の字数の如何にかかわらず整数部分が同じもの

は同一区分に入れる。

4. 算術平均

各年齢別にこの度数分布によつて計算し、小数第3位を4捨5入して小数第2位迄求め、その結果に身長、胸囲及び坐高の場合は0.45cmを、体重の場合には0.45kgをそれぞれ加える。

以上の方法は昭和31年度の文部省の学校衛生統計調査提要に従つた。

3. 成 績

4. 発育状態

1. 身長 全学生877名の身長に関する実態は第1表の如くである。

第1表 神戸女学院大学生877名の身長の実態

満年齢 身長	18年	19年	20年	21年	22年	人員合計 (名)
138cm	0	0	1	0	0	1
140	0	0	1	0	0	1
141	0	2	0	0	0	2
142	0	1	1	1	0	3
143	1	1	1	1	0	4
144	3	2	2	1	0	8
145	3	1	2	3	0	9
146	6	0	4	4	0	14
147	9	9	1	5	0	24
148	3	9	5	8	0	25
149	7	6	10	4	0	30
150	11	13	13	11	0	48
151	18	19	11	16	3	67
152	13	28	16	16	0	73
153	18	24	17	14	2	75
154	20	13	15	14	3	65

155	23	22	18	17	3	83
156	18	20	16	13	1	68
157	14	16	19	11	2	62
158	14	13	13	12	0	52
159	4	13	10	12	1	40
160	10	5	16	8	2	41
161	9	3	4	7	0	23
162	3	3	8	3	2	19
163	4	4	7	4	0	19
164	3	3	2	1	2	11
165	1	0	2	1	1	5
167	2	0	0	1	0	3
168	1	0	0	1	0	2
人員合計 (名)	218	233	215	189	22	877
算術平均 (cm)	154.79	154.19	155.18	154.75	157.36	154.77

これを年齢別に観察すると満18年の218名中の最矮者は143cm(1名)、最長者は168cm(1名)で最も分布の多いのは155cmの23名である。算術平均は154.76cmを示し日本の最新の発表である昭和29年度文部省の指定統計第15号を対照に比較すると満18年の全国女子大学生平均(以下◎と略する)は154.0cmであるから、0.76cm発育の良い事を示めず。満19年の233名中の最矮者は141cm(2名)、最長者は164cm(3名)で最も多いのは152cmの28名である。算術平均は154.19cmで満19年◎の154.1cmに比して0.09cm大である。満20年の215名中の最矮者は138cm(1名)、最長者は165cm(2名)で最も多いのは157cmの19名である。算術平均は155.18cmで満20年◎の154.1cmに比して1.08cm大である。満21年の189名中の最矮者は142cm(1名)、最長者は168cm(1名)で155cmの17名が最も多い。算術平均は154.75cmで満21年◎の154.2cmに比して0.55cm大である。満22年の22名中の最矮者は151cm(3名)、最長者は165cm(1名)で算術平均は157.36cmである。満22年◎の153.9cmに比して3.46cm大である。

以上の如くであるから877名の総算術平均は154.77cmであり昭和29年度全国女子大学生総平均(以下④と略する)は153.87cmであるから0.90cm大である。又全国晝間部女子大学生総平均(以下⑤と略する)に比して本大学生は0.80cm大であり、全国夜間部女子大学生総平均(以下◎と略する)に比して1.48cm大である。最矮者は138cm、最長者は168cm、最も分

布の多いのは155cmの83名で9.46%を占める。

身長に関しては一般に晝間部女子大学生は夜間部女子大学生に優つているし各種の統計を参照しても市部学生は郡部学生に優つている。又昭和28年度㊦は153.84cmであるし29年度㊧は153.97cmという如く毎年身長は向上を示している。本大学に於ては満22年の22名を例外とみなせば、身長發育の最大は満20年の155.18cmで㊦及び㊧に比較して更に發育の良い事を示めし、これは日本人の骨格は大体20年で化骨するとの藤浪博士の説を証明した感がある。

2. 体重 全学生877名の体重に関する実態は第2表の如くである。

第2表 神戸女学院大学生877名の体重の実態

学年令 体重 (kg)	18年	19年	20年	21年	22年	人員合計 (名)
37kg	0	1	0	0	0	1
38	1	0	0	0	0	1
39	1	1	1	0	0	3
40	1	1	2	3	0	7
41	1	4	5	5	0	15
42	4	3	2	6	0	15
43	12	7	5	3	0	27
44	12	5	6	5	1	29
45	12	14	10	11	1	48
46	22	19	14	8	4	67
47	11	13	15	8	0	47
48	20	23	16	18	1	78
49	11	22	12	17	2	64
50	23	24	26	16	3	92
51	10	25	30	17	1	83
52	11	14	13	11	1	50
53	12	14	16	13	3	58
54	15	10	9	7	1	42
55	5	8	10	8	0	31
56	11	3	7	10	1	32
57	9	7	2	5	1	24
58	4	4	4	2	0	14
59	4	3	3	5	0	15
60	3	4	1	5	0	13
61	0	0	2	1	0	3

62	1	1	1	1	2	6
63	0	2	0	0	0	2
64	2	0	2	0	0	4
65	0	0	0	2	0	2
66	0	1	0	1	0	2
67	0	0	1	0	0	1
68	0	0	0	1	0	1
人員合計 (名)	218	233	215	189	22	877
算術平均 (kg)	50.26	50.32	50.62	50.98	51.45	50.56

これを年齢別に観察すると満18年中の最軽者は38kg(1名)、最重者は64kg(2名)、分布の最も多いのは50kgの23名である。算術平均は50.26kgで満18年◎は49.4kgであるから0.86kg発育の良い事を示めす。満19年中の最軽者は37kg(1名)、最重者は66kg(1名)、51kgの者は25名で最も多い。算術平均は50.32kgで満19年◎の49.7kgに比して0.62kg重い。満20年中の最軽者は39kg(1名)、最重者は67kg(1名)51kgの者は30名で最も多い。算術平均は50.62kgで満20年◎の49.6kgに比して1.02kg重い。満21年中の最軽者は40kg(3名)、最重者は68kg(1名)、48kgの18名が最も多い。算術平均は50.98kgで満21年◎の49.2kgに比して1.78kg重い。満22年中の最軽者は44kg(1名)、最重者は62kg(2名)、46kgの4名が最も多い。算術平均は51.45kgで満22年◎の49.3kgに比して2.15kg重い。

以上の如くであるから877名中の最軽者は37kg、最重者は68kg、最も多いのは50kgの92名で全体の10.49%を占める。算術平均は50.56kg、◎は49.26kgであるから1.30kg重く又◎より1.2kg重く◎より1.49kg重い。故に本大学生は体重発育の良い事を示めす。又体重は年齢と共に増大する事を示めす。

3. 胸囲 全学生877名の胸囲に関する実態は第3表の如くである。

第3表 神戸女学院大学生877名の胸囲の実態

胸囲(cm) \ 年齢	18年	19年	20年	21年	22年	人員合計 (名)
69	1	0	0	0	0	1
70	0	1	0	1	0	2
71	1	2	0	1	0	4
72	3	1	1	0	0	5

73	5	4	7	2	0	18
74	7	8	10	3	0	28
75	8	14	14	5	0	41
76	11	13	12	7	1	44
77	21	22	14	10	3	70
78	31	19	14	15	1	80
79	22	24	24	8	2	80
80	16	29	29	16	2	92
81	13	20	13	11	2	59
82	21	18	18	20	1	78
83	10	20	15	18	1	64
84	14	11	16	13	2	56
85	10	12	6	15	1	47
86	12	3	6	13	0	34
87	7	5	9	14	2	37
88	1	3	0	6	1	11
89	1	1	1	7	2	12
90	1	2	1	2	0	6
91	1	0	1	1	0	3
92	0	0	0	0	1	1
93	1	0	1	1	0	3
95	0	1	0	0	0	1
人員合計 (名)	218	233	215	189	22	877
算術平均 (cm)	80.50	80.36	80.52	82.52	82.95	80.97

これを年齢別に観察すると満18年中の最狭胸囲は69cm(1名)、最広胸囲は93cm(1名)で78cmの31名が最も多い分布を示めず。算術平均は80.50cmで満18年@の80cmに比して0.50cm大である。満19年中の最狭は70cm(1名)、最広は95cm(1名)で最も多いのは80cmの29名である。算術平均は80.36cmで満19年@の80.5cmに比して0.14cm狭である。満20年中の最狭は72cm(1名)、最広は93cm(1名)、最も多いのは80cmの29名である。算術平均は80.36cmで満19年@の80.5cmに比して0.14cm狭である。満20年中の最狭は72cm(1名)、最後は93cm(1名)、最も多いのは80cmの29名である。算術平均は80.52cmで満20年@の80.7cmに比して0.18cm狭い。満21年中の最狭は70cm(1名)、最広は93cm(1名)、最も多いのは82cmの20名である。算術平均は80.52cmで満21年@の80.6cmに比して0.08cm狭い。満22年中の

最狭は76cm、最広は92cmである。算術平均は82.95cmで満22年㊸の80.8cmに比して2.15cm広い。

以上の如くであるから877名中の最狭は69cm、最広は95cm、最も多いのは80cmの92名で全体の10.49%を占める。総算術平均は80.97cmで㊸は80.57cmであるから0.40cm広い。尙㊸より0.43cm広く、㊸より0.30cm狭い。本大学生の比胸囲は52.31cmでこれは正常胸型の範囲にある事を示めず。一般に夜間部女子大学生は身長は短いが胸囲は各年令別共に広く、又都市学生は郡部学生より狭胸囲なるとの多くの成績と一致する。

4. 坐高 全学生877名の坐高に関する実態は第4表の如くである。

第4表 神戸女学院大学生877名の坐高の実態

満年令 坐高 (cm)	18年	19年	20年	21年	22年	人員合計 (名)
73	0	0	0	1	0	1
74	0	0	0	1	3	4
75	0	0	0	4	0	4
76	0	0	0	2	0	2
77	0	1	0	5	1	7
78	1	2	2	6	1	12
79	1	4	5	10	0	20
80	11	5	7	11	0	34
81	15	18	14	16	0	63
82	20	30	17	20	0	87
83	35	36	26	24	1	112
84	25	33	33	23	3	117
85	34	41	28	15	2	120
86	33	28	32	22	6	121
87	23	19	19	12	4	77
88	11	9	16	9	0	45
89	9	4	10	4	1	28
90	5	2	4	1	0	12
91	5	0	0	0	0	5
92	0	1	1	1	0	3
93	0	0	1	0	0	1
94	0	0	0	1	0	1
97	0	0	0	1	0	1
人員合計 (名)	218	233	215	189	22	877
算術平均 (cm)	85.17	84.54	85.09	83.59	83.86	84.45

坐高の計測は昭和12年から始められ昭和19年以後は削除されたが再び昭和24年から加えられたものである。坐高は成田氏も説く如くに体格、体質を構成する一要素であり発育栄養指数構成上又兒童の発育と机、腰掛を適合させる等のために必要な事はいうまでもない。

本大学生を年令別に観察すると満18年では最小78cm(1名)、最大91cm(5名)、85cmの者が最も多くて34名を占める。算術平均は85.17cmで満18年㉔の84.0cmに比して1.17cm大である。満19年では最小77cm(1名)、最大92cm(1名)、85cmの者が最も多くて41名を占める。算術平均は84.54cmで満19年㉔の84.0cmに比して0.54cm大である。満20年では最小78cm(2名)、最大93cm(1名)、84cmの者が最も多くて33名を占める。算術平均は85.09cmで満20年㉔の83.9cmに比して1.19cm大である。満21年では最小73cm(1名)、最大97cm(1名)、83cmの者が最も多くて24名を占める。算術平均は83.59cmで満21年㉔の84.2cmに比して0.61cm小である。満22年では最小74cm(3名)最大89cm(1名)、86cmの6名が最も多い。算術平均は83.86cmで満22年㉔の83.8cmに比して0.06cm大である。

以上の如くであるから877名中の最小は73cm、最大は97cm、最も多いのは86cmの121名で全体の13.80%を占める。総算術平均は84.45cmであるから㉔の83.97cmに比して0.48cm大、又㉕に比して0.45cm大、㉖より0.73cm大である。一般に晝間部女子大学生は夜間部女子大学生に比して身長、坐高共に大である事を示めす。

(ロ) 健康状態

1. 眼 疾

軽度のカタル性結膜炎はかなりにみられたがトラコーマは1名もなかつた

2. 色神異常

本大学では全学生に対して特に検査をしていないが例年生理学受講学生には検査し、異常者を発見していない。

3. 視 力

本大学に於ては現在は眼科専門医の診察を受ける恩恵によくさないので屈折異常を矯正して得る処の矯正視力は適確にはわからない。従つて正確に把握出来るのは裸眼視力丈である。一般に日本人の健常視力は標準の照度に於いて1.2乃至1.5である。但し1.0の視力は健常に近く且つ眼を使つて普通業務を執るに十分な視力であるから実際にはこれを健常視力と看做して差支えない。この見地から本大学生877名について観察すると実態は第5表の如くである。

第5表

神戸女学院大学生877名に関する裸眼視力の実態

年 令	18年		19年		20年		21年		22年		人員合計 (%)	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
裸眼視力	右左眼											
0.02 (0.1× $\frac{1}{3}$ m)	0	0	2	1	1	1	1	0	0	0	4	2
0.04 (0.1× $\frac{2}{3}$ m)	4	4	9	5	4	4	0	3	0	0	17	16
0.06 (0.1× $\frac{3}{4}$ m)	4	8	8	4	1	2	4	2	1	1	18	17
0.08 (0.1× $\frac{4}{5}$ m)	5	5	6	4	4	1	3	1	0	0	18	11
0.1	31	29	16	21	18	24	20	22	3	3	88	99
0.2	11	12	13	14	13	6	14	13	2	1	53	46
0.3	7	6	7	7	9	10	13	13	0	1	36	37
0.4	6	6	5	6	4	1	4	4	2	1	21	18
0.5	11	6	8	4	3	7	6	4	0	1	28	22
0.6	6	6	5	7	4	4	3	3	1	0	19	20
0.7	6	4	11	10	5	7	4	4	1	1	27	26
0.8	14	27	18	26	14	7	9	11	2	2	57	73
0.9	23	21	32	27	10	13	8	8	1	2	74	71
1.0	15	15	23	23	15	24	7	12	3	2	63	76
1.2	63	57	59	63	70	68	65	57	5	6	262	251
1.5	12	12	9	9	40	36	28	32	1	1	90	90
2.0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2
人員合計(名)	218	218	233	233	215	215	189	189	22	22	877	877
算術平均	0.75	0.74	0.66	0.70	0.91	0.91	0.84	0.85	0.72	0.74	0.81	0.82
健常視力人員(名)	90	84	93	97	125	128	100	101	9	9	417	419

以上の如くであるからこれを年令別に観察すると満18年中最も視力の悪い者は0.04(眼前2mに於て0.1を視うる者をいう。)の右眼4名、左眼4名で又最も優秀なのは1.5で各々12名ずつである。最も分布の多いのは共に1.2で右眼63名、左眼57名、算術平均は右眼0.75、左眼0.74である。又健常視力者は右眼90名、左眼84名である。満19年中の最も視力の悪い者は左右共に0.02(1名)、最も良いのは左右共に2.0(2名)、最も多いのは1.2で右眼59名、左眼63名、算術平均は右眼0.66、左眼0.70である。健常視力者は右眼93名、左眼97名である。満20年中の最も悪いのは0.02の左右各1名、最も良いのは1.5の右眼40名、左眼36名、又最も多いのは1.2で右眼70名、左眼68名である。算術平均は右眼左眼共に0.91を示めし、健常視力者は右眼125名、左眼128名である。満21年中の最も悪いのは右眼0.02(1名)、左眼0.04(3名)、最も良いのは1.5で右眼28名、左眼32名、又最も多いのは1.2で

右眼65名、左眼57名である。算術平均は右眼0.84、左眼0.85である。健常視力者は右眼100名、左眼101名である。満22年中の最も悪いのは0.06の左右各1名、最も良いのは1.5の左右各1名、又最も多いのは1.2で右眼5名、左眼6名、算術平均は右眼0.72、左眼0.74である。健常視力者は左右各9名づつである。従つて877名中の最も悪い視力は0.02、最も良いのは2.0、最も多いのは1.2で右眼262名、左眼251名、平均裸眼視力は右眼0.81、左眼0.82、健常視力者は右眼417名で47.54%、左眼419名で47.78%を示めし、本大学生の健常視力者は50%以下である事を知る。又視力の非常に悪い者の中には乱視を伴い眼科医の診断による乱視者は満18年0名、満19年5名、満20年8名、満21年12名、満22年0名で合計25名である。

4. 難 聴

本大学では全員には正確な検査を施行していないので省略する。

5. 栄養状態不可者

満18年3名、満19年5名、満20年1名、満21年0名、満22年0名で合計9名は栄養状態不可者であるから要注意者とみなす。

6. むし歯

877名のむし歯に関する実態は第6表の如くである。

第6表 神戸学院大学生877名のむしばの実態

事 項		満 年 令					人員合計 (名)	%
		18年	19年	20年	21年	22年		
むし歯の無い者		98	91	68	50	6	313	35.69
むし歯の有る者		120	142	147	139	16	564	64.31
む有の しる内 歯者訳	むし歯処置完了者	85	110	108	105	11	419	47.78
	むし歯処置未完了者	35	32	39	34	5	145	16.53
人 員 合 計 (名)		218	233	215	189	22	877	100

むし歯の無い者は313名で35.69%を占め、年令の若い者程多数を占める。むし歯の有る者は564名で64.31%にあたり、そのうち処置完了者は419名で全学生の47.78%、未処置者は145名で16.53%である。換言すれば処置完了者は全むし歯所有者564名中の74.29%にあたり、未処置者は25.71%である。尙歯の検査は大学に於ても専門歯科医の診断を理想とする。

7. ツベルクリン反応

877名のツベルクリン反応に関する実態は第7表の如くである。但し入学当時に全員検査済であるから確實既陽性の不受検者を含む成績である。

第7表 神戸女学院大学生877名のツベルクリン反応に関する実態

事 項	満年齢	18年	19年	20年	21年	22年	人員合計 (名)	%
陽 性 者		209	224	203	178	22	836	95.32
疑 陽 性 者		3	2	5	3	0	13	1.49
陰 性 者		6	7	7	8	0	28	3.19
人員合計(名)		218	233	215	189	22	877	100
陽性者中の陽転者		10	0	3	1	0	14	

以上の如くであるから877名中の陽性者は836名で95.32%、疑陽性者は13名で1.49%、陰性者は28名で3.19%を占める。尙本年度に於ける陽転者は14名である。従つて陰性者には結核に対する予防接種を受けさせ、疑陽性者及び陽転者にはこの1年間は十分に健康に注意を喚起する必要がある。

8. X線検査

全員に間接撮影を「日西レントゲン検診協会」に依頼して施行した。その結果精密検査を必要とする者33名との報告を受取つた。従つて一應その全員に面接し診察の結果と総合して必要ある者に就ては直接撮影及び個々に應じて諸種の精密検査を各自が受診する事とした。

9. 医師の診察(疾病異常)

全在学生を診察の結果、満18年の21名、満19年の32名、満20年の28名、満21年の20名、満22年の4名、合計105名に対しては健康状態要注意を喚起し、それぞれ治療方針を通達した。その実態は第8表の如くである。

第8表 神戸女学院大学生の健康状態要注意者105名の実態

事 項	満年齢	18年	19年	20年	21年	22年	人員合計 (名)
感 胃 傾 向		2	7	2	3	1	15
陳旧性呼吸器疾 患の再燃可能者		4	3	0	4	0	11
栄 養 不 可		3	5	1	0	0	9
瘦 削 (重症)		0	4	1	3	0	8
心 臓 病		1	2	3	1	0	7
脚 気 症		2	2	2	0	1	7
睡眠障害ないし 神経衰弱症		1	2	1	1	1	6
慢性胃腸カタル		1	0	2	2	0	5
貧 血 症		1	0	1	1	0	3

喘息性気管枝炎傾向	1	0	2	0	0	3
黄 疸	1	0	1	1	0	3
重症扁桃腺炎傾向	0	3	0	0	0	3
心臓血管神経症	0	0	2	0	1	3
背 髓 性 小 児 麻 痺 後 遺 症	1	1	0	0	0	2
心悸亢進、速脈	1	0	1	0	0	2
肩こり(重症)	0	1	1	0	0	2
歯 齦 炎	0	1	1	0	0	2
長期無月経症	0	0	2	0	0	2
水 痘	0	0	0	0	0	1
V.A及び脂肪 分 欠 乏 症	0	1	0	0	0	1
慢性結膜炎(重症)	0	0	1	0	0	1
面 皰 (重症)	0	0	1	0	0	1
蕁 麻疹(重症)	0	0	1	0	0	1
肝 炎	0	0	0	1	0	1
胆 囊 炎	0	0	1	0	0	1
関 節 炎	0	0	1	0	0	1
脳性小児麻痺後遺症	0	0	0	1	0	1
唱 者 結 節	0	0	0	1	0	1
麦粒腫傾向	0	0	0	1	0	1
虫 垂 炎	1	0	0	0	0	1
人員合計(名)	21	32	28	20	4	105

以上の如く一番多いのは感冒傾向の15名で殆ど年中頻回感冒に罹患し常に身体の異和を訴えている者を意味する。次で陳旧性呼吸器疾患再燃可能者11名で、これは肋膜炎、肺門周囲炎及び肺浸潤に最近罹患し一應治療状態におかれているが不安定な者をいう。栄養不可及び瘦削は何れもかなり重症で疲労しやすく呼吸器疾患、其他を注意する必要がある者を特に意味する。心臓病は先天性心臓病をはじめ僧帽弁膜閉鎖不全症、心室の病的肥大症等を含む。其他第8表の如くであるが重症というのは非常に頻回に或は程度を強く繰返す事を意味する。尙女性生理に関する訴えは述者の既発表の如くに相当多数を占めているものではあるが今回の身体検査当日には特に調査しなかつたので省略する。

4. 結 論

全学生 877名の 身体検査による発育と健康状態に関する結論は次の如くである。

1. 身 長

最短者は138cm(1名)、最長者は 168cm(2名)、155cmの者が最も多くて83名で9.46%を占める。算術平均は154.77cmで最新の発表即ち1954年度全日本女子大学生平均(以下㉔と略する)より 0.9cm大、全日本晝間部女子大学生(以下㉕と略する)より 0.8cm大、全日本夜間部女子大学生(以下㉖と略する)より 148.cm大であるから本学院学生は発育良好なる事を示している。尙年令別に観察すると満18年の算術平均は154.76cm、19年は154.19cm、20年は155.18cm、21年は154.75cm、22年は157.36cmである。

2. 体 重

最軽者は 37kg(1名)、最重者は68kg(1名)、50kgが最も多くて92名で10.49%を占める。算術平均は 50.56kg 之は㉔に比して 1.3kg重く、㉕より 1.26kg、㉖より 1.49kg重い。年令別に観察すると満 18年の算術平均は 50.26kg、19年は50.32kg、20年は50.62kg、21年は 50.98kg、22は51.45kgを示めし年令と共に体重は増大して発育良好である。

3. 胸 囲

最狭者は69cm(1名)、最広者は95cm(1名)、最も多いのは80cmの92名で10.49%を占める。算術平均は 80.97cmで㉔に比して0.4cm広く㉕より0.43cm広く㉖よりは0.30cm狭く、本大学生は働く学生よりは胸囲の狭い事を示めす。比胸囲は 52.31で正常胸型の範囲にある事を知る。年令別に観察すると算術平均は満18年80.50cm、19年は80.36cm、20年は 80.52cm、21年は82.5cm、22年は82.95cmである。

4. 坐 高

最小者は 73cm(1名)、最大者は 97cm(1名)、86cmが最も多くて121名で13.80%を占める。算術平均は 84.45cm、㉔に比して0.48cm大、㉕より0.45cm大、㉖より 0.73cm大である。年令別に観察すると算術平均は満18年は85.17cm、19年は 84.54cm、20年は85.09cm、21年は83.59cm、22年は83.86cmである。

5. 眼 疾

トラコーマは皆無である。

6. 裸眼視力

最も悪い者は0.02、最も良いのは2.0、最も多いのは 1.2、健常視力と認

め得る者は右眼417名で47.54%、左眼418名で47.66%を示めす。尙確実なる乱視者は25名である。

7. むし歯

むし歯皆無の者は313名で全体の35.69%、むし歯所有者は564名で64.31%を占める。即ちむし歯所有者中の処置完了者は419名で47.78%、未処置者は145名で16.54%である。

8. ツベルクリン反応

陽性者は836名で95.32%、このうち本年度陽轉者は14名である。疑陽性者13名、陰性者28名を示めす。

9. X線間接撮影

検査の結果呼吸器其他で精密検査を要すると報告された者は33名である。

10. 診察 (疾病異常)

診察の結果要注意を喚起した者は105名ありこのうち5名以上存在する事項は次の如くである。

感冒傾向の強い者15名、陳旧性呼吸器疾患の再燃可能者11名、栄養不前者9名、瘦削著明者8名、心臓病7名、脚氣症7名、睡眠障碍ないし神経衰弱症6名、慢性胃腸カタル5名等である。

5. 将来への希望

1. 視力検査に関しては裸眼視力と屈折異常を又眼疾、色神異常等を眼科専門医によつて正確に施行されている処は全国的に未だ少いと考えられるが、本大学に於ても専門医による検査を希望する。又耳鼻咽喉及び歯牙の検査についても、たとえ大学であつても予算を整えて専門医の診察を希望する。

2. 寄生虫卵検査を年に2回以上行う方がよい。その時期は定期身体検査以外の適当な時を選ぶ

3. 体力に関して種々の検査を行う事は大学生にとつては自分の体力を認め健康への自律性を持たしうる点から有益であると考え。本大学では第2学年の全員に筋力、呼吸器能力、循環器能力の諸測定を指導し更に興味を持つ者は以後も自主的に検査を行つている。これに関しては別の機会に報告する。

将来への希望としては以上の如く考えるが、学校身体検査は学校の年間最大行事として学校全体が心を盡くして参画すべきであるし学校当局者

は勿論、全員が各自の認識と協力を更に徹底される事を熱望する次第である。

本論文の欄筆にあたり、身体検査に尽力せられた校医岡通博士に深謝を捧げ、協力された前多純助手並びに諸氏に感謝する。

6. 文 献

1. 成田 巧 公衆衛生第19巻3号 頁35~38 (1956)
2. 文 部 省 昭和31年度 学校衛生統計調査提要 (1956)
3. 文 部 省 学校衛生統計報告書指定統計 第15号 昭和29年度 (1955)
4. 文 部 省 同 上 昭和28年度 (1954)
5. 文 部 省 同 上 昭和27年度 (1953)
6. 文 部 省 同 上 昭和26年度 (1952)
7. 文 部 省 同 上 昭和25年度 (1951)
8. 白石、吉川、熊沢 体育医学 頁 319~381 (1954)
9. 吉田章信 運動生理衛生学粹 頁66 (1948)
10. 石原 忍 小眼科学 頁6~8 (1955)
11. 井上善十郎 新衛生学 頁 647 (1953)
12. W. G. スマイリー著アメリカに於ける公衆衛生行政 頁353~376 (1950)
13. 川畑愛義公衆衛生学 (監修戸田正三) 頁285 (1948)
14. 市川民慈子 神戸女学院八十周年記念論文集 頁171~187 (1955)

Ichikawa, Tamiji

Development and Health Condition of
Kobe Jogakuin College Students in 1956 School Year
Résumé

The student physical examination rule was established in Japan in 1897. Later some change was made in the subject matter of the rule, but tentatively during these 60 years the rule has been in force in the form of physical examinations. By giving physical examinations we can know the development and the health condition of the students. And then we can help those who are underdeveloped or who have malnutrition by giving advice as to how they can improve their nutrition. And also we can guide those who are not well or who are diseased and give advice for medical treatment and remedy. We shall also answer questions concerning health problems through consultation. By doing these things it is our ideal to carry out personal health management. At the same time we are aiming to use these findings to guide students in their own study and to give an autonomy toward health to individuals and to build a foundation for healthful living. Therefore great value can come as a result of enforcing the physical examinations without exception and using this findings.

To understand the actual physical condition of the students is important for this gives us basic data for the health administration in school. So here I shall present the results of the health examinations of Kobe Jogakuin college students of 1956 school year (877 students in all; 18 years of age:218; 19 years of age:233; 20 years of age:215; 21 years of age:189; 22 years of age:22).

1. Height :

Shortest 138cm (1 girl)
Tallest 168cm (2 girls)

The largest numbers of girls of uniform height was 83 girls who measured 155cm. Accounting for 9.46% of all the students. The average height of all the students is 154.77cm. Comparing this height with the latest data (presented in 1954) of the average of all Japanese university girl students (hereinafter referred to as (A)), it is found to be 0.9cm taller. It is also 0.8cm taller than the average of all Japanese university girl day students (hereinafter referred to as (B)), and 1.48cm taller than the average of all Japanese nighttime university girl students (hereinafter referred to as (C)).

The students of this college show a good development.

To present this number by age groups:

The average of 18 years of age	154.76cm
The average of 19 years of age	154.19cm
The average of 20 years of age	155.18cm
The average of 21 years of age	154.75cm
The average of 22 years of age	157.36cm

2, Weight:

Lightest 37kg (1 girl)

Heaviest 68kg (1 girl)

The largest number of girls of uniform weight was 92 girls who measured 50kg. Accounts for 10.49% of all the students. The average of all the students is 50.56kg. Comparing this with (A), (B) and (C), we find it to be 1.30kg heavier than (A), 1.26kg heavier than (B) and also 1.49kg heavier than (C). This too, shows good development.

To present this number by age groups:

The average of 18 years of age	50.26kg
The average of 19 years of age	50.32kg
The average of 20 years of age	50.62kg
The average of 21 years of age	50.98kg
The average of 22 years of age	51.45kg

3. Girth of the chest :

Smallest 69cm (1 girl)

Largest 95cm (1 girl)

The largest number of girls of uniform girth of chest was 92 girls who measured 80cm. Accounts for 10.49% of all the students.

The average of all the students is 80.97cm.

The ratio of girth of the chest to height is 52.31 so it is a normal shape. This is 0.4cm larger than (A), 0.43cm larger than (B) but 0.30cm smaller than (C).

This shows girth of the chest of the students of our college is smaller than those who work in the daytime.

To present this number by age groups:

The average of 18 years of age 80.50cm

The average of 19 years of age 80.36cm

The average of 20 years of age 80.52cm

The average of 21 years of age 82.52cm

The average of 22 years of age 82.95cm

4. Sitting Height :

Shortest 73cm (1 girl)

Heighest 97cm (1 girl)

The largest number of girls of uniform sitting height was 121 girls who measured 86cm. Accounts for 13.80% of all the students

The average of all the students is 84.45cm. This is 0.48cm taller than (A), 0.45cm taller than (B) and also 0.73cm taller than (C). To present this number by age groups:

The average of 18 years of age 85.17cm

The average of 19 years of age 84.54cm

The average of 20 years of age 85.09cm

The average of 21 years of age 83.59cm

The average of 22 years of age 83.86cm

5. None has trachoma

6. Sight testing :

According to the sight-test, those who have normal visual power are, right eye : 417 girls (47.54% of all the students) and left eye : 418 girls (47.66% of all the students).

The weakest visual power was measured 0.02 and the strongest 2.0. The largest number of girls of uniform visual power was measured 1.2.

25 girls have actual astigmatism

7. Decayed teeth :

Those who have no decayed teeth 313 girls (35.69%)

Those who have treated decayed teeth 419 girls (47.78%)

Those who need treatment 145 girls (16.53%)

8. Tuberculin reaction :

There are 836 girls who show positive reaction (95.32% of all the students), and 14 of these girls turned positive this year.

Those who show a doubtful reaction are 13 girls and 28 girls showed negative reaction.

9. X-ray examination :

As the result of "indirect" X-ray examinations 33 girls were told to get detailed examinations.

10. Physician's examination :

As a result of Doctor's examinations 105 girls were asked to pay special attention to their condition.

To list the diseases or conditions which are common to 5 or more girls :

A tendency to the common cold 15 girls

Old respiratory disease which may recur 11 girls

Malnutrition 9 girls

Excessively reduced weight	8 girls
Cardiac disease	7 girls
Beriberi	7 girls
Sleeping trouble or neurasthenia	6 girls
Chronic gastro-intestinal catarrh	5 girls

(The disorders of menstruation are omitted.)

This is the summary of the findings concerning the physical condition of our college students.

I wish to request the college in the future to:

- 1.) Require stool examination for all students for parasite eggs about twice a year and give treatment for extermination of parasites.
- 2.) Require all students to have their eyes checked by an ophthalmologist. And the ophthalmologist should diagnose eye diseases and visual power and discover irregular reflection.
- 3.) Check individual physical strength and let each girl understand her own condition. Try to develop a positive attitude on the part of the students toward the promotion of good health. (But some part of this is taking place.)

In conclusion I strongly urge the college and each one of you to show your interest in the physical condition and good health of our students and to work in close cooperation with the health management.